

# 「気候変動への賢い適応」

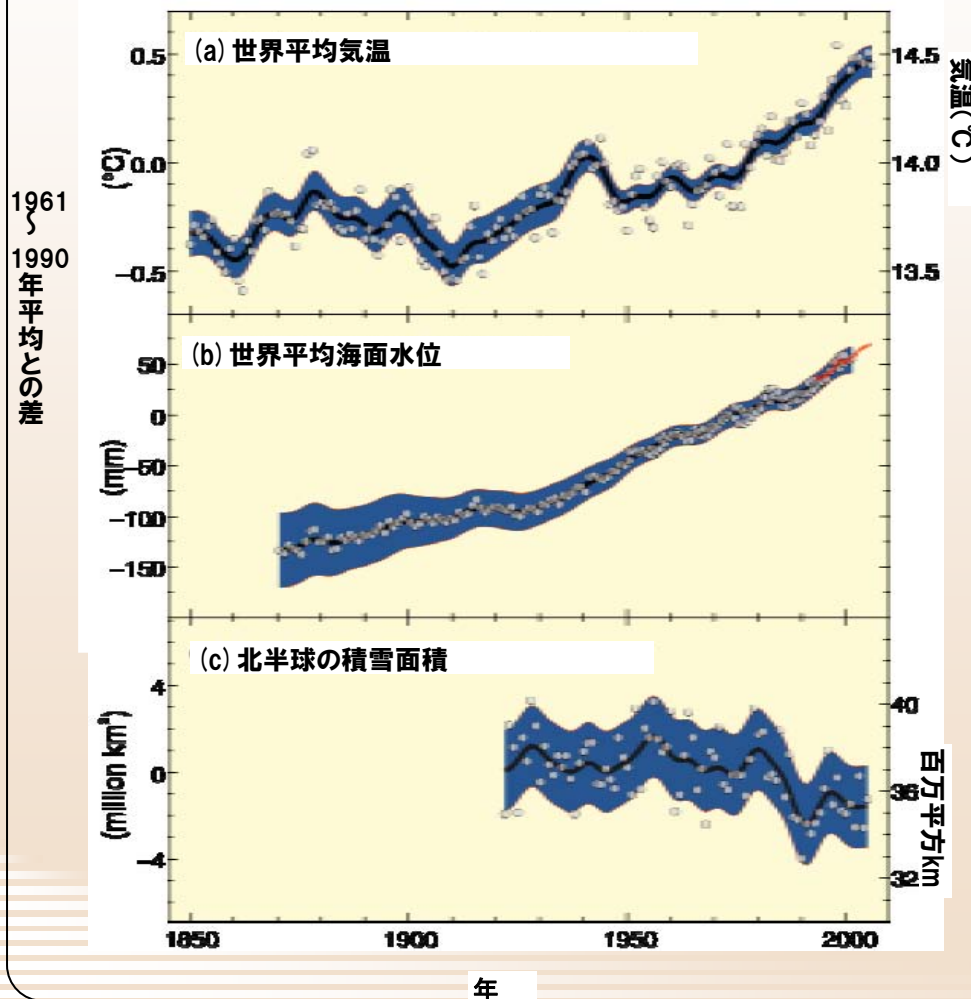
IPCC第4次評価報告書、環境省資料等より作成

# 気候変化の影響(現状と予測)

# 気候変化とその影響に関する観測結果

気候システムの温暖化には疑う余地はない。

気温、海面水位、北半球の積雪面積の変化



●過去100年で世界平均気温が0.74°C上昇  
20世紀中に平均海面水位は17cm上昇

●最近12年(1995~2006年)のうち、11年は1850年から現在までの間で最も暖かかった

●海面上昇:  
平均1.8mm/年上昇(1961年以降)  
平均3.1mm/年上昇(1993年以降)

●北極の海氷:  
1978年以降、10年あたり2.7%減少  
特に夏季は、10年あたり7.4%減少

●世界各地で降水量が大きく増加または減少(1900~2005年)

●世界各地で干ばつの影響を受ける地域が増加(1970年代以降)

●熱波・豪雨の頻度がほとんどの地域で増加  
●極端な高潮現象が世界中で増加(1975年以降)

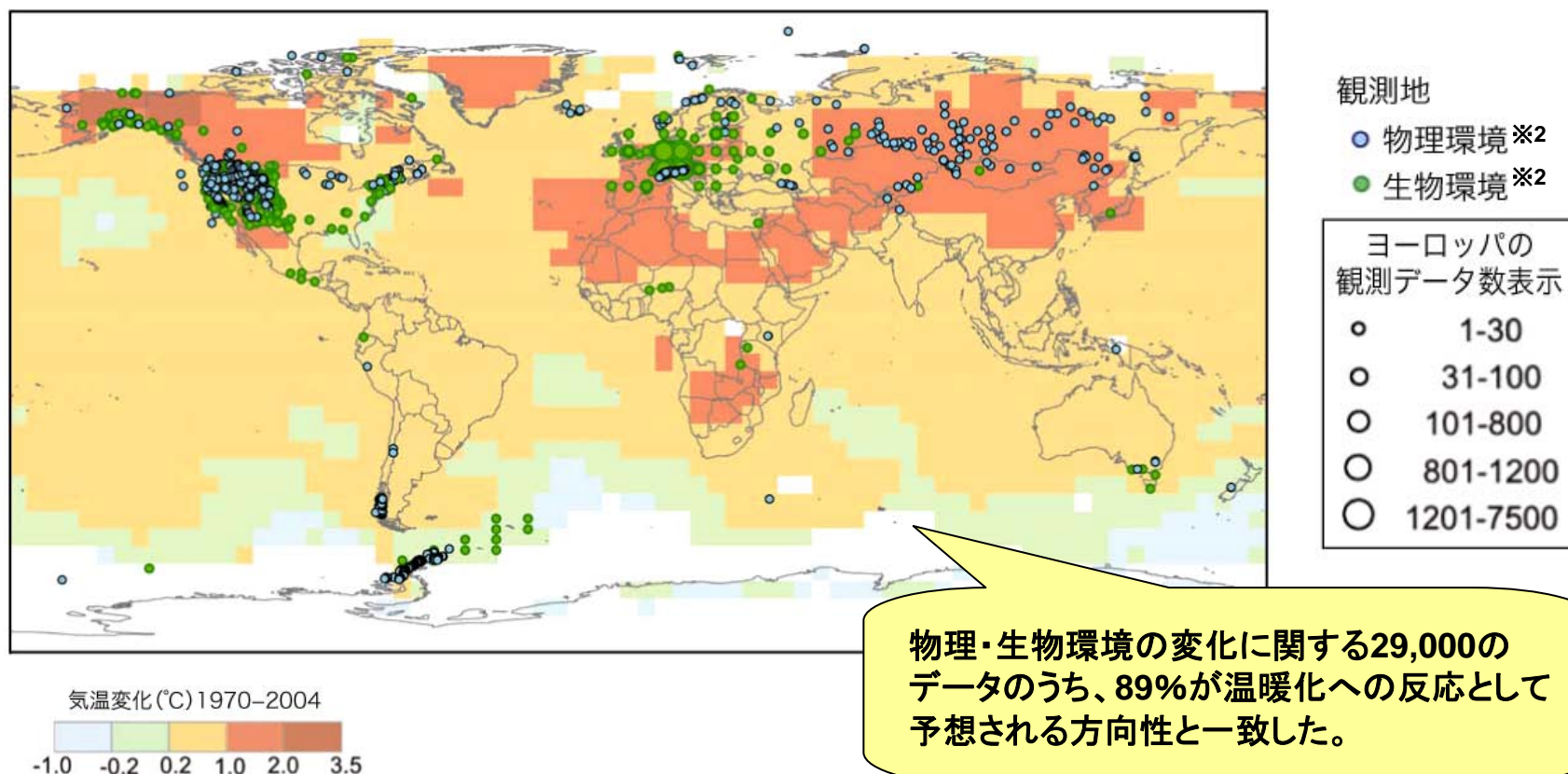
出典: IPCC第4次評価報告書

# 温暖化の影響<現状>

- 全ての大陸とほとんどの海洋において、多くの自然環境が、地域的な気候の変化、特に気温の上昇により、今まさに影響を受けている。

出典：AR4 SYR SPM

## 1970年から2004年の間に世界各地で観測<sup>※1</sup>された物理・生物環境<sup>※2</sup>の変化と温暖化の相関



※「極地」は海洋や淡水生物環境での観測された変化を含む。「海洋・淡水」は、海洋、小島嶼及び大陸の中の地点や広域において観測された変化を含む。

※1: 観測結果は、577の研究成果の80,000以上のデータ群から選ばれた、29,000のデータから得られたものである。選出の基準は以下の3点である:(1) データが1990年以降に終了していること、(2) 最低20年間継続されていること、(3) いずれかの方向に有意な変化を示していること。

※2: ここでの物理環境とは氷雪、凍土、水循環、沿岸部などに関する物理的な事象を、生物環境とは海洋、淡水、陸上における生物に関する事象を意味する。

出典：IPCC第4次評価報告書